

Sunshine 第14回 Lessons

Lesson 14-1 : 疑問詞⑧ (How many ○○ / How much △△)

ここでは「どれくらいの数の○○が～ですか」「どれくらいの量の△△が～ですか」という意味の How many ○○ ~? と How much △△ ~? について学んでいきます。

1. How many ○○~?=どれくらい (の数の) ○○が～。 (○○には可算名詞の複数形が入る)

<例> How many pens do you need? (あなたは、何本ペンが必要なのですか)
How many students does he teach? (彼は何人の生徒を教えているのですか)

2. How much △△~?=どれくらい (の量の) △△が～。 (△△には不可算名詞が入る)

<例> How much water do you want? (あなたは、どれくらい水が欲しいのですか)
How much money does he have? (彼は、どれくらいお金を持っているのですか)

Lesson 14-2 : いる・ある (疑問文)

「いる・ある」の疑問文は、「be 動詞」を文頭に持ってくれば完成となります。

【「いる・ある」の疑問文：基本の形】

be 動詞 + there + 名詞 + ~?

<例> Is there a red pen on the table? (赤いペンはテーブルの上にはあるのですか)
Are there eight desks in the classroom? (8台の机が教室にはあるのですか)

【作り方】

ステップ 1. There + be 動詞 の肯定文を作る。
ステップ 2. be 動詞を文頭に持ってきて、最後を?にする。

<例 1 : 赤いペンはテーブルの上にはあるのですか>

ステップ 1. There + be 動詞 の肯定文を作る。

→ 「赤いペンがテーブルの上にあります」

There is a red pen on the table.

ステップ 2. be 動詞を文頭に持ってきて、最後を?にする。

Is there a red pen on the table?

<例 2 : 8 台の机が教室にはあるのですか>

ステップ 1. **There + be 動詞** の肯定文を作る。

→ 「8 台の机が教室にあります」

There are eight desks in the classroom.

ステップ 2. **be 動詞**を文頭に持ってきて、最後を?にする。

Are there eight desks in the classroom?

【ポイント!】

「いくつか / いくらか / 何か」という意味の any は、よく登場する。

「いる・ある」の疑問文では「いくつか / いくらか / 何か」という意味の any がよく登場します。基本的に any は “Are there any 複数形 ~?” か “Is there any 不可算名詞 ~?” の形で使われます。

<例> Are there any big desks in the classroom? (教室に大きな机は何台かありますか)

Is there any food on the table? (テーブルの上にいくらか食べ物があるのですか)

【疑問文の答え方】

Yes, there be 動詞.

No, there be 動詞 not.

*be 動詞と not の短縮形を使うのが一般的。

<例 1>

Is there a red pen on the table? (赤いペンがテーブルの上にあるのですか)

はい → Yes, there is. いいえ → No, there isn't. (No, there is not.)

<例 2>

Are there eight desks in the classroom? (8 台の机が教室にあるのですか)

はい → Yes, there are. いいえ → No, there aren't. (No, there are not.)

そして、疑問詞が付く場合は、他の疑問文同様「いる・ある」の疑問文の前に How many ○○ / How much △△ といった疑問詞を足してあげれば完成となります。

【いる・ある (疑問詞+疑問文) : 基本の形】

疑問詞 + be 動詞 + there + ~?

<例> How much money is there in the box?

(箱の中にどれくらいの量のお金があるのですか)

How many Chinese restaurants are there in this city?

(この市には、何軒の中華料理店があるのですか)

【作り方】

ステップ1：疑問詞の部分に**適当な単語**を入れて there + be 動詞の**疑問文**を作る。

ステップ2：入れた「適当な単語」を**疑問詞**に戻す。

ステップ3：疑問詞を**文頭**に持ってくる。

<例：この市には何軒の中華料理店があるのですか>

ステップ1：疑問詞の部分に**適当な単語**を入れて **there + be** 動詞の疑問文を作る。

→ 「この市には **5 軒の中華料理店** があるのですか」

Are there **five Chinese restaurants** in this city?

ステップ2：入れた「適当な単語」を「**疑問詞**」に戻す。

Are there **how many Chinese restaurants** in this city?

ステップ3：疑問詞を**文頭**に持ってくる。

How many Chinese restaurants are there in this city?

Lesson 14-3: 様々なフレーズ⑮

1. (That / It) sounds ~ = (それは) ~そうだね

<例> A: Do you want to go to Nagoya? B: Sounds good.

<A: 名古屋に行きたいですか。 B: 良さそうだね>

〔補足説明〕

That / It が省略されて Sounds ~. の形でよく使われる。sound には「音 (名詞)」という意味もあるが、ここでは「音がする (一般動詞)」という意味で使われている。主語が That / It なので、sounds と最後に3人称・単数・現在形の s がついている。~のところには、good / great などの形容詞が主に入る。

2. have a barbecue = バーベキューをする

<例> Let's have a barbecue tomorrow. <明日バーベキューをしましょう>

〔補足説明〕

barbecue は、barbeque と書かれる場合もある。

3. someday = いつか / そのうち

<例> I want to go to Australia someday. <私はいつかオーストラリアに行きたいです>

〔補足説明〕

someday 文の先頭か最後に主に足される。また someday と似た意味で sometime も使われることがある (sometime は近い未来、someday は遠い未来を表すことができる)。

<例> 私はいつか広島をたずねたいです。

1. I want to visit Hiroshima someday.

2. I want to visit Hiroshima sometime.

4. For example, ~. = 例えば、～。

<例> He can play many sports. For example, he can play tennis and soccer.

<彼はたくさんのスポーツができます。例えば、彼はテニスとサッカーができます>

〔補足説明〕

For example, の後は文章だけでなく、単語やフレーズだけ入れることも可能。

<例> He can play many sports. For example, tennis and soccer.

5. the beach = 浜

<例> Let's go to the beach. <浜に行きましょう>

〔補足説明〕

基本的に特定されていない浜でも the beach と the が付く。また、「浜で / 浜にて」という場合、at the beach と on the beach の両方が主に使われる。on the beach は、基本的に「砂の上にいる」ことを表す (海の中でもなければ、近くの売店でもなく、砂の上にいるという意味)。at the beach は、広い意味での「浜で / 浜にて」という意味になるため、砂の上だけでなく、海の中でも、近くの売店にいても使うことができる。

Lesson 14-4 : 文の途中に入る副詞 (疑問文・否定文)

ここでは、usually / sometimes / also といった文の途中に入る副詞を「疑問文」「否定文」に足す方法について学んでいきます。ここで登場する副詞は「文の種類 (be動詞の文、一般動詞の文、助動詞の文) によって足される場所が違う」という特徴をもっています。そのため、まずは確認の意味も含めて肯定文の時の足し方について復習していきましょう。

【肯定文】

be動詞の肯定文 = be動詞の後に足される。

<例> They are usually busy. (彼らはたいてい忙しいです)

一般動詞の肯定文 = 一般動詞の前に足される。

<例> We sometimes play soccer. (私たちは、時々サッカーをします)

助動詞 (canなど) の肯定文 = 助動詞の後に足される。

<例> He can also speak Japanese. (彼は、日本語も話せます / 彼も日本語が話せます)

【疑問文】

疑問文では、文の種類に関係なく

まず副詞を足した形で肯定文を作り、それを疑問文にすれば完成

となります。つまり、be動詞の文であれば、副詞を足したbe動詞の肯定文を作り、その後でbe動詞を文頭に持ってくれば完成。一般動詞の文であれば、副詞を足した一般動詞の肯定文を作り、その後でDo を文頭に足すか、Doesを文頭に足し、一般動詞のe/esを取れば完成。そして助動詞の文であれば、副詞を足した助動詞の肯定文を作り、その後で助動詞を文頭に持ってくれば完成となります。

be動詞の疑問文 = 肯定文を作り、be動詞を文頭に持ってくる。

<例> They are usually busy. (彼らはたいてい忙しいです)

↓

Are they usually busy? (彼らはたいてい忙しいのですか)

一般動詞の疑問文 = 肯定文を作りDoを文頭 / Does を文頭に足し一般動詞のs/es を取る

<例> She sometimes plays soccer. (彼女は、時々サッカーをします)

↓

Does she sometimes play soccer? (彼女は、時々サッカーをするのですか)

助動詞 (canなど) の疑問文 = 肯定文を作り、助動詞を文頭に持ってくる。

<例> He can also speak Japanese. (彼は、日本語も話せます / 彼も日本語が話せます)

↓

Can he also speak Japanese?

(彼は、日本語も話せるのですか / 彼も日本語が話せるのですか)

【否定文】

そして、否定文についてですが、これも文の種類に関係なく

まず副詞を足した形で肯定文をつくり、それを否定文にすれば完成

となります。つまり、be動詞の文であれば、副詞を足したbe動詞の肯定文を作り、その後でbe動詞の後に

not を足せば完成。一般動詞の文であれば、副詞を足した一般動詞の肯定文を作り、その後で一般動詞のところを “do not (don't) 一般動詞” あるいは “does not (doesn't) 一般動詞の原形” の形にすれば完成。そして助動詞の文であれば、副詞を足した助動詞の肯定文を作り、その後で助動詞のあとに not を足せば完成となります。

ただし以下のことは注意する必要があります。

1. **not always** は「いつも～するわけではない」という意味

not always は「いつも～しない」「全く～ない」という意味ではなく「いつも～というわけではない」という意味になる。

<例> He is not always busy. (彼はいつも忙しいわけではないです)

<彼はいつも忙しくない=×>

* 「全く～ない」は never を使って表す。

<例> He is never busy. (彼は忙しいことは全くないです)

2. **否定文では also は基本的に使われない**

also は、基本的に否定文では使われない。否定文で「～も」という場合は文の最後に, either を足すのが主流。

<例> I am not a teacher, either. (私も先生ではありません)

<I am not also a teacher. =×>

be動詞の否定文 = 肯定文を作りbe動詞の後に not を足す。

<例> They are usually busy. (彼らはたいてい忙しいです)

↓

They are not (aren't) usually busy. (彼らはたいてい忙しくないです)

一般動詞の否定文 = 肯定文を作り “do not (don't) / does not (doesn't) 一般動詞原形” を足す。

<例> She usually gets up early. (彼女は、いつもは早くに起きます)

↓

She does not (doesn't) usually get up early. (彼女いつもは早くに起きません)

助動詞の否定文 = 肯定文を作り助動詞の後に not を足す。

<例> You can always come here. (あなたはいつもここに来ることができます)

↓

You cannot (can't) always come here. (あなたはいつもここに来られるわけではないです)

Lesson 14-5: 様々なフレーズ⑬

1. A or B = A か B / A または B (接続詞)

<例> You can read this book or that book. <あなたはこの本かあの本を読むことができます>

2. show ○○ around = ○○を案内する

<例> Can you show me around? <(私を)案内してくれますか>

〔補足説明〕

○○には「人」が入る(代名詞なら目的格)。show は、ここでは「見せる / 示す」という一般動詞として使われており、around は「周囲を / 周囲に / あちこち」という副詞として使われている。そのため show ○○ around の直訳は「○○に、あちこち見せる」となる。

3. go camping = キャンプに行く

<例> Let's go camping. <キャンプに行きましょう>

〔補足説明〕

camp は「野営地 / 収容所」といった場所を表す名詞、あるいは「テントを張る / 野宿する」といった動詞として主に使われる。そのため「キャンプに行く」という場合、go to a camp とは基本的に言わず、camp を camping と動名詞の形にすることで「野宿すること」とし、go camping とすることで「野宿をするのに行く = キャンプに行く」となる。

4. outside = 外側 / 外側に / 外に / 外の

<例> We can't go outside *at night. <私たちは、夜外に行くことはできません>

*at night = 夜に (一般的な夜を指す場合は、at the night / in the night とはならないので注意)

〔補足説明〕

outside は「名詞 (外側)」「前置詞 (～の外に)」「副詞 (外に)」と様々な意味で使われる。

<名詞> Paint the outside of the house. (家の外側をペイントする)

<前置詞> It is outside the building. (それは建物の外にあります)

<副詞> Let's play outside. (外で遊びましょう)

Lesson 14-6 : スピーチなどで使われるフレーズ

1. would like to ~ = ~したいと思う / ~させてあげたい

<例> I would like to go home. <私は家に帰宅したいです>

〔補足説明〕

「would like to は、want to の丁寧な言い方」とよく言われる。would は「~だろう」「~でしょう」といった意味を表すことができる助動詞。そのため、would like to ~ は「~することを好むでしょう」と直訳することができ、want to の丁寧な言い方と考えることができる。

主語の I と would を短縮させ、I'd like to の形は、スピーチなどではよく登場する。

2. (Do) you mean ~? = ~のことですか / ~ですよ?

<例> A: I like soccer. B: Do you mean football?

<A: 私はサッカーが好きです。 B: フットボールのことですか>

〔補足説明〕

mean は「意味する」という一般動詞。相手が言ったことを確かめる際によく使われるフレーズ。また、自分が何か言い間違えた際、正しいことを言う前に I mean ~. というフレーズがよく使われる。

<例> The test is on Wednesday. Oh, I mean Thursday.

<テストは水曜日です。いや、違って木曜日です>

そのため、(Do) you mean ~? は「相手が言い間違えたのではないか? ひょっとして~という意味ではないか?」というニュアンスで使われることもある。

3. a lot of = たくさんの / 多くの

<例> I have lots of water. <私はたくさんの水を持っています>

He had a lot of cars. <彼はたくさんの車を持っていました>

〔補足説明〕

a lot of とほとんど同じ意味で使われる lots of というフレーズもある。a lot of / lots of は、可算名詞・不可算名詞の両方で使える。many / much も似た意味で使われるが、many は可算名詞のみ。much は、不可算名詞のみで使うことができる。また、much あまり肯定文では使われず、否定文で使われることが多い。

<例> I don't have much water. <私はたくさんの水を持っていません>

He had many cars. <彼はたくさんの車を持っていました>

4. a kind of ○○ = ○○の一種

<例> Soccer is a kind of sport. <サッカーは、スポーツの一種です>

〔補足説明〕

a kind of ○○ の○○に入るのは、可算名詞の単数形の場合 a/an は省略されるので注意。また、主語が複数などの理由から kind が kinds と複数形になる場合は、○○も複数形になる。

<例> Soccer is a kind of a sport. = ×
Soccer and baseball are kinds of sports.

5. Thank you for listening. = ご清聴ありがとうございます。

<例> *That's it. Thank you for listening. <それで終了です。ご清聴ありがとうございます>

That's it. は「それで終了です」という意味。授業やスピーチなどの最後によく使われる。

〔補足説明〕

Thank you for ~ing. で「～してくれてありがとう」という意味になる。Thank you for listening. は、スピーチやプレゼンテーションなどの最後で使われるフレーズだが、Thank you だけで終わらせることも多い。

Lesson 14-7 : スピーチなどで使われる話の組み立て方

【話の組み立て方】

- (1) 基本的な形は「導入」→「主張」→「理由 1 & 説明」→「理由 2 & 説明」(→「理由 3 & 説明」)→「まとめ」となる。
- (2) 「主張」の後には、I have two reasons. (私には2つ理由があります) など、いくつ理由があるか説明する。
- (3) 「理由 1」を説明する前には、First, / First of all, といった単語やフレーズを足す。
- (4) 「理由 2」を説明する前には、Second, / Next, といった単語を足す。
- (5) 「理由 3」を説明する前には、Third, / (最後の理由なら) Finally, といった単語を足す。
- (6) 「まとめ」を説明する前には、so (そのため) といった単語を足し、最後は Thank you. などの締めの挨拶で終わる。

<日本語での例>

私の好きなスポーツについてお話します。私の好きなスポーツはサッカーです。2つ理由があります。1つ目の理由は、サッカーは良い運動になるからです。サッカーではあまりプレーが止まらないので、常に歩いたり走ったりする必要があるので良い運動になります。2つ目の理由は、チームスポーツだからです。勝っても負けてもたくさんの人たちと喜びや悲しみを共有できます。だから私は、サッカーが好きです。今後もこの気持ちは変わらないと思います。

〔導入〕 私の好きなスポーツについてお話します。

〔主張〕 私の好きなスポーツはサッカーです。

〔理由 1〕 サッカーは良い運動になるからです。

説明： サッカーではあまりプレーが止まらないので、常に歩いたり走ったりする必要があるので良い運動になります。

〔理由 2〕 チームスポーツだからです。

説明： 勝っても負けてもたくさんの人たちと喜びや悲しみを共有できます。

〔まとめ〕 私は、サッカーが好きです。今後もこの気持ちは変わらないと思います。

<英語での例>

I would like to talk about my favorite food. My favorite food is sushi. I have two reasons. First, it is healthy. It does not have much *fat, but it has a lot of *protein. Second, it *tastes good. Some fish are cheap, but they *taste good, so I like sushi. Thank you.

fat = 脂肪	protein = タンパク質	taste = 味がする
----------	-----------------	--------------

〔導入〕 I would like to talk about my favorite food.

〔主張〕 My favorite food is sushi.

〔理由 1〕 It is healthy.

説明： It does not have much fat, but it has a lot of protein.

〔理由 2〕 It tastes good.

説明： Some fish are cheap, but they taste good.

〔まとめ〕 So I like sushi. Thank you.